# 北海道医歌人会詠草

## 竜胆（リンダウ）

札幌　浜島（はまじま）　泉（いずみ）

トンボ飛ぶやうやう射す陽（ひ）　リンダウの青とムクゲの白を見廻る
草刈りの匂ひとセミの騒（さは）めきが町に流れつ　日差しが熾烈
水に浮く睡蓮に似て　ハナミヅキ枝葉の上へ花を開けり
窓を引く月の渡るを眺めんと　明けの寒さが浸（し）みいりて来（き）つ
親を超え米（こめ）の祝ひを受くる齢（よはひ）　寿ぐ前に父は逝きけり

## 加齢

釧路　児玉（こだま）　昌彦（まさひこ）

もの忘れ小刻み歩行　昼夜逆転　老いたる妻の日々の現実
「何事をするにも時間かかるのよ」時計の針に追いつけぬ身は
スーパーの弁当を買い夕食に　家事卒業の妻に代りて
ゴミ出しに冷蔵庫管理　通帳と引継ぎせわしき老々介護
枝からませ寄りそう二本の樹に残る風雪の跡　時間の重み

## 写真

北広島　古屋雅三知（ふるやまさみち）

押入れの隅より出でしアルバムを開けば時は知らぬ間に過ぐ
セピア色　昔を記す一枚に　記憶を辿る時の楽しさ
子等交じえ幼なき頃の思い出を語れば尽きぬ懐かしき日々
アルバムと未整理写真は山と積まれ如何にせんとぞ途方に暮れる
来し方の思い出詰まりしモノにあれば軽々しくは捨てられもせず

## 北山時雨

函館　水関（みずせき）　清（きよし）

過たず石跳び越えて走り来る　犬の瞳に　映る吾（あ）の顔
朝刊に寝そべる猫の両耳の　間（はざま）から読む　四コマ漫画
灯を寄せて見入る花あり　烏瓜　五体を伸ばし夜（よ）を包み込む
雲流れ　北山時雨の京の街　鴨川跨ぎ丸き虹出る
天からの手紙が残す着地音　ひと冬をかけ　大地と語らふ

## 秋の余波（なごり）

士別　竹内（たけうち）　幹夫（みきお）

虚しくも海に散りにし十八の命のかけら珊瑚抱けり
波高き海は常世の扉にてかへる道なき境ひらけぬ
名を呼べば遠つ潮路の彼方より声に応ふる気配立ち来も
破れたる箱に残れる衣にはあらたまのかげやどりてあらむ
遠き海近き海とも分かたずに来たり寄るもの鎮めまつらむ

## 女子高校生

滝川　村田（むらた）　英俊（ひでとし）

パン食べる女子高生に物申す朝メシくらい自宅（いえ）で食べて来い
世の中は立体的に動くものイヤホン・スマホじゃ深さが足らん
早朝の生徒の声に目が覚めて音楽のごと声に聞き入る
女生徒よ十年後また話したい宇宙飛行士であろうあなたと
今はまだ生まれてたった十数年　恋愛映画なら序章だよ